

## 随喜品二箇の大事

### 第一 妙法蓮華經随喜功德の事

御義口伝に云はく、随とは事理に随順するを云ふなり、喜とは自他共に喜ぶ事なり、事とは五百塵点の事顕本に随順するなり、理とは理顕本に随ふなり。所詮寿量品の内証に随順するを随とは云ふなり。然るに自他共に智慧と慈悲有るを喜とは云ふなり。所詮今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る時、必ず無作三身の仏に成るを喜とは云ふなり。然る間随とは法に約し、喜とは人に約するなり。人とは五百塵点の古仏たる釈尊、法とは寿量品の南無妙法蓮華經なり。是に喜び随ふを随喜とは云ふなり。総じて随とは信の異名なり云云。唯信心の事ことを随と云ふなり。されば二の巻に「此の經に随順す。己が智分に非ず」と説かれたり云云。

### 第二 口氣無臭穢 優鉢華之香 常 從其口出の事

御義口伝に云はく、口氣くけとは題目なり、無臭穢むしゅえとは弥陀等の權教方便無得道の聖教を交へざるなり、優鉢華之香うはっけしこうとは法華經なり。末法の今は題目なり、方便品の如優曇鉢華にょうどんぱっけの事の一念三千と云へり。之を案ずべし。常とは三世常住なり、其口こくとは法華の行者の口なり、出とは南無妙法蓮華經なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉るは常從其口出なり云云。